

AI治療計画支援システム

オプテックがーT系展示会で紹介

口腔内の所見情報を入力するだけで、病名や症状に応じた治療手順の傾向を示すAIが登場。オプテック(本社・東京都千代田区、中島治郎社長)は8月31日、都内で開かれた日本マイクロソフト主催のイベント「Japan Partner Conference 2018」に、5万件以上の歯科カルテデータを学習させたAI型治療計画支援システム「One.AI(仮称)」を紹介。昨年の「東京アンタルショー」でも公開しているもので、年内にβ版、来春に正式版の提供を始める予定と発表された。さらに要望に応じて他メーカーのレセコン等でも使用できるように、APIの公開も予定している。

業界初と言われる同AI型システムは、患者への治療説明時に「もっと客観的な判断・意見を取り入れて説明したい」「他の歯科医師の知見も参考にして治療手順を確定したい」との歯科医師からの要望を受け、IT企業のクレスコと日本マイクロソフトと連携し開発



同システムの説明は多くの関心を集めた

したものの。オプテックのレセコン・電子カルテシステム「Opt.One」に、日本マイクロソフトのAIシステムを組み込んだことで、術者にとってはAIが導き出す推論結果を参考に治療手順の確定がしやすく、患者への治療説明も早い段階で行える。また、質の高いカルテ

の作成やより効率的な入力作業も期待できる。具体的な活用方法として、例えば「右上の奥歯が部分的に黒い」との所見情報を入力すると、同システム内のAIが既に学習したカルテデータを基に病名を推測。「C2」「C3処置歯」「咬合異常」などと、それらの症

状に適した病名が可能性の高い順に表示され、その一覧から病名を選べば、症状の進行具合に応じた治療法を例示してくれる。

また、複数の歯に症状が見られる場合には、どの歯から治療していけば適切なかの判断が付くように治療順序も推論してくれる。

歯の表面を含む口腔内所見やレントゲン画像のみでは判断しにくいケースにおいては、さまざまな症状を取り扱ったカルテデータを基に導き出したAIの推論が加わることで、治療法や手順が確定しやすくなるという。

同社によると、実際に同AIシステムを試用した歯科医師からは「臨床経験の浅い歯科医師にとって診療・治療のシミュレーション

に生かせるとともに、効率的なカルテ作成にも役立つ」「客観的データとして例示してくれるので、セカンドオピニオンとしての役割も担っていると思う」との評価が得られているという。

「One.AI(仮称)」の他に、実際に行った治療内容を入力すると、カルテに記載する病名と所見を例文として表示する「AIアプリ」も開発中で、One.AI(仮称)β版のリリースに合わせて無料公開する予定。